

# ヨーロッパ統合の発展

八丈島民大学 No.1 2013 年 3 月 1 日 田中 素香 (中央大学)

## 1. はじめに

EU (ヨーロッパ連合) 2012 年ノーベル平和賞受賞

他方で、ギリシャの反ドイツデモ、イギリス首相の残留国民投票提案 (2013 年)

現在の EU、ヨーロッパをどのように見ればよいのか?

## 2. 第 2 次大戦後：西欧の経済統合

- (1) ヨーロッパの形成 ルネッサンス (文芸復興 イタリアーフィレンツェ、フランス、その他ヨーロッパ各国)、科学革命 (地動説)、商業革命 (スペイン：アメリカ発見、ポルトガル：アジア航路)、イギリス・フランスの台頭 [市民革命、民主主義、近代化]、産業革命で世界の覇権を握った、
- (2) しかし帝国主義 (世界中を植民地支配) と戦争 (第 1 次、第 2 次ヨーロッパ戦争から世界大戦へ)
- (3) 第 2 次大戦後 米ソ超大国の出現と西欧の没落→「西欧の復興」を目指して経済統合へ [フランス、西ドイツ、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルクの 6 カ国が統合をスタート]
- (4) 欧州統合の父ジャン・モネの言葉 「ヨーロッパは危機を通じて形成され、危機に対する解決策の積み重ねとして構築されていく。」
- (5) 超国家機関を活用し、法治主義で統治：基本条約に基づいて、超国家機関の欧州委員会が政策を提案し、欧州議会に諮問し、6 カ国の大臣からなる閣僚理事会が法令を採択。違反については、欧州司法裁判所が判決。

## 3. EC/EU 経済統合の 4 段階

○EC (ヨーロッパ共同体)：1952 年 (1967 年)～1993 年、 EU (ヨーロッパ連合)：1993 年 11 月～今日

- (1) 統合第 1 段階 ECSC (欧州石炭鉄鋼共同体) 両部門の自由貿易体制構築

危機は戦争期の敵国フランスと西ドイツの仲直りができるかどうか=不戦体制を石炭鉄鋼共同体により構築する。

鉄鋼共同体の成功：①鉄鋼生産で西ドイツを追い上げ、②フランス世論の西ドイツ意識の転換

- (2) 統合第 2 段階 EEC (欧州経済共同体)

危機：戦後自由貿易体制→アメリカとの競争→技術力格差 (アメリカは大量生産・大量消費文明) →アメリカの最新技術取り入れのために、関税同盟をつくる

関税同盟：域内関税の撤廃＋対外共通関税→12年かけて徐々に形成 1958年～1968年7月完成

農業：農業共同市場形成 [統一価格、統一財政、保護主義]

1970年代は世界経済の混乱期 [2つの石油ショック、世界不況、インフレ] →経済統合は進まず (各国の自国優先主義が強まった：再国民化)

(3) 統合第3段階 EC 単一市場 (1985～1992年)

危機：日米英との競争劣位 製造業＋サービス (金融、運輸、電気通信など)

単一市場は「商品、サービス、資本、人の域内自由移動を保証」→国を超えて一国体制＝広域国民経済化＝アメリカ追隨

いろいろな非関税障壁 (関税以外の経済障壁) の撤廃：域内税関、技術的障壁、税障壁  
域内税関は93年1月1日廃止、技術的障壁は製造業で撤廃、サービス業の自由化は21世紀初頭までかかった

スペイン、ポルトガルの EC 加盟 1986年→所得格差が大きいため財政支援 (地域政策基金) を拡大して対応。ギリシャ、アイルランドも。また他の諸国の低所得地域、衰退産業地域も支援。

#### 4. 統合 (拡大・深化) を続けるヨーロッパ：21世紀

(1) 21世紀の拡大 中・東欧諸国 10カ国が加盟 合計 12カ国 →EU27カ国へ

中・東欧諸国：共産圏から EU へ 西欧から投資が継続し経済の近代化へ (経済面では西欧の中・東欧支配へ。27カ国が同じ EU 法の統治の下へ) 賃金格差を利用して低賃金生産基地へ 西欧諸国 (とりわけドイツ) の競争力強まった 日系企業も 200社以上が進出

(2) ユーロ導入

危機：単一市場の金融危機、ドイツ統一 (1990年)

98年欧州中央銀行設立 [フランクフルト]

1999年 (ユーロ現金なし、銀行口座振替のみ) と 2002年 (ユーロ現金流通)

#### 5. むすび

21世紀初頭のヨーロッパ：

27カ国 EU (5億人を超える人口、アメリカを超える経済規模、ユーロ圏の形成)

加盟国が多すぎて、また国民意識や経済発展度が大きく違うので、まともにはもう一つ

20世紀後半は西欧だけで行動できた「奇跡の時代」→ソ連崩壊で終了した

西バルカン半島諸国を加盟させながら「共通の未来」をつくっていくしかない

(それでも、日中関係・日韓関係に比べるとはるかに先を行っている)